

■各部の給油、点検とオイル交換

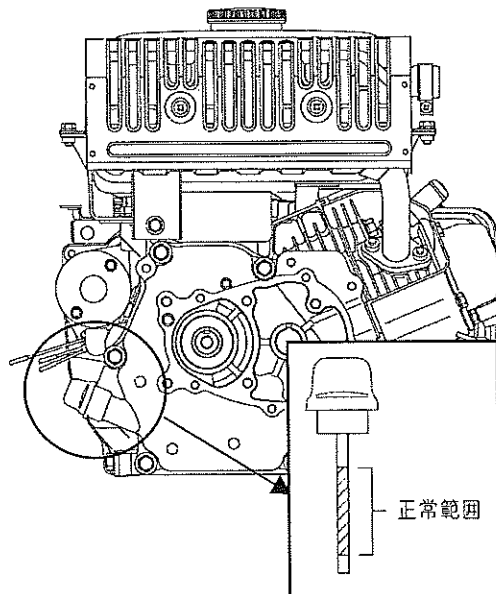
重要

今まで使用していたオイルと異なるメーカー、あるいは粘度No. の異なるものを使用する場合はオイルを全部排出してから、新しいオイルと交換してください。異なる銘柄での継ぎ足し使用は絶対にしないでください。

□ エンジンオイル

オイルの種類	オイル粘度	規定量
ガソリンエンジンオイル	10W-30 SJ 級	0.6 ㍓

- ① エンジンオイルが規定量入っているか確認してください。
- ② オイル量がゲージの上下線の間であれば正常です。不足なら補給してください。



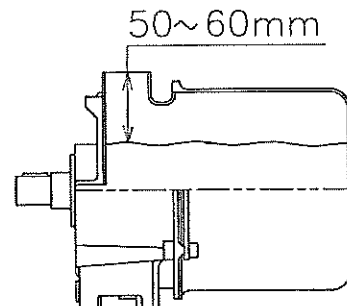
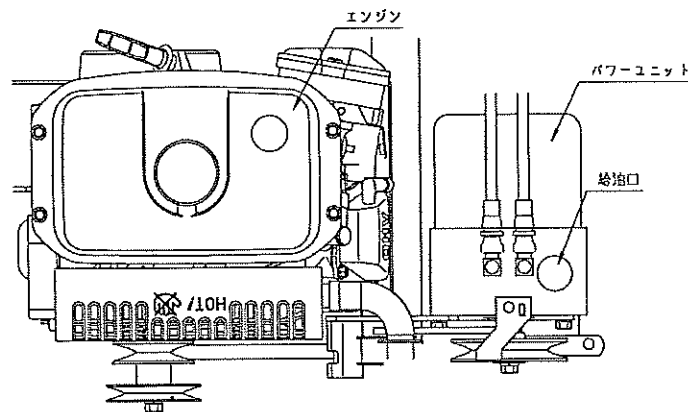
補足

エンジン停止直後では、各部にオイルが残っていますので正確なオイル量が測れません。少なくとも停止後 5分以上たってから、機体を水平にして点検してください。

□ 油圧作動油(パワーユニットオイル)

オイルの種類	オイル粘度	規定量
油圧一般作動油	VG 32	1.6 ㍓

- ① 車体を水平にしてブームを下端に下げて油量を点検してください。
- ② 作動油が不足していれば、給油口より補給してください。
- ③ 給油量の目安は、給油口から50~60mm の位置に油面があれば適量です(油温40℃時)。



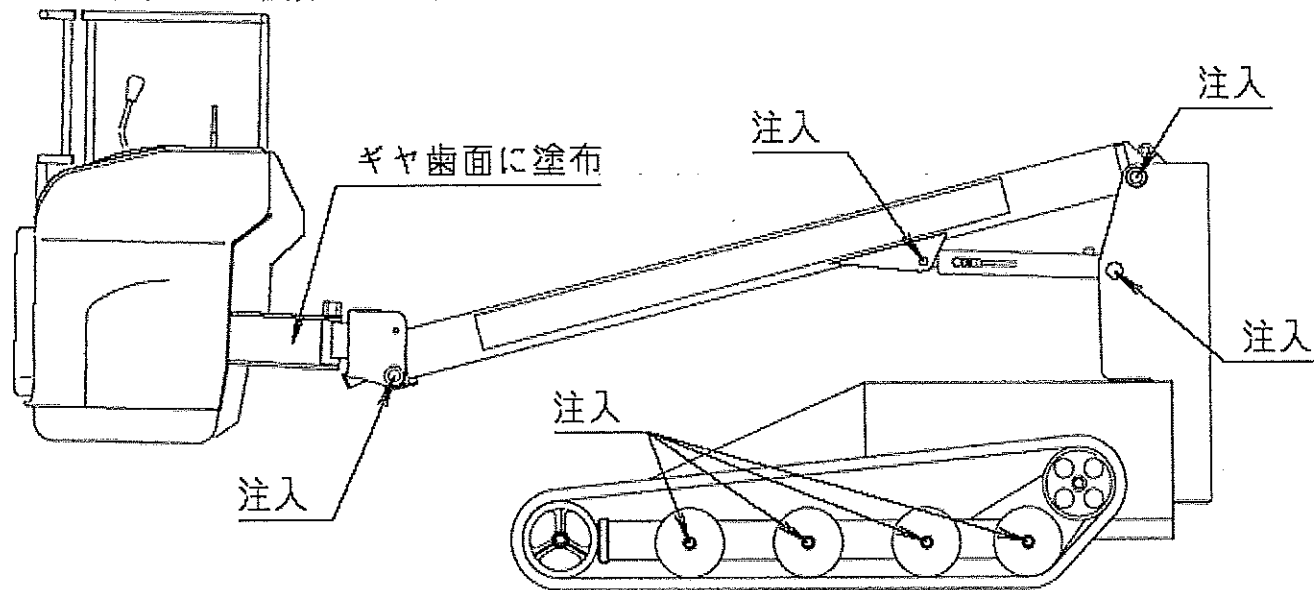
補足

- 油量が不足している場合は、『ブームが上がらない』、『上昇速度が不安定になる』といった症状が出ます。補充してください。
- 油量が過剰である場合は、給油口から作動油が吹き出すおそれがあります。
- 給油時には、異物が混入しないように、付近の砂やゴミをよく拭き取り、充分注意して行ってください。
- 補給する場合は、必ず同一銘柄の作動油を使用し、絶対に他銘柄と混合しないでください。
- オイルの減少が著しい場合は、油圧配管の劣化や損傷が考えられます。その際は、購入された販売店にご相談ください。

フライヤを安全に調子よく長持ちさせるには

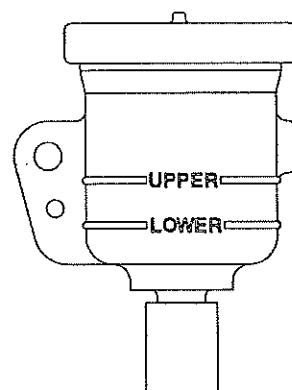
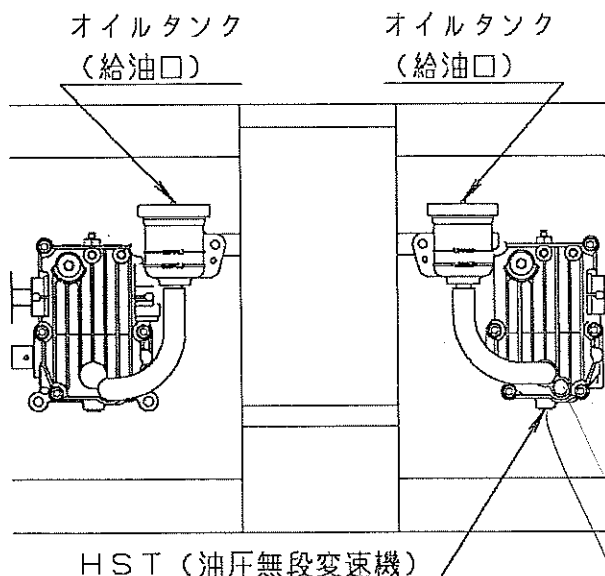
□ 各ジョイントピンの給脂

グリースの種類・・・極圧(万能)グリース



□ HST ミッションオイル

オイルの種類	粘度・等級	規定量
ディーゼル エンジンオイル	SAE 10W-30 CD 級	0.6 ㍓ (片側)

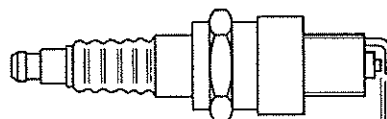


UPPER と LOWER のラインの間にオイルがあれば正常です。
LOWER 以下で走行に異常がある場合は、オイルを補充してください。
入れすぎると、オイルがあふれ出す場合があります

■ 点火プラグの調整

- ① プラグ用プラグレンチでプラグを外し、付着しているカーボンをワイヤブラシで清掃してください。
- ② 電極間隔を 0.6 ~ 0.7 mm に調整してください。
- ③ 調整間隔は 100 時間に 1 回位が目安になります。

点火プラグ : NGK BPR2ES



0.6 ~ 0.7 mm